



## ABILITY 2.0 PRO

## ABILITY Pro 徹底攻略!

## その18 ビートエディタ&amp;ボーカルエディタが進化!

ABILITY の特徴的なオーディオ編集機能である「ビートエディタ」と「ボーカルエディタ」の2つのエディタが進化しました。前者には発音タイミングを一括で整える「クオンタイズ」が、後者にはノート単位で自然なピッチの揺らぎを加える「ビブラート」が新たに搭載されています。いずれも即戦力としてトラックメイクに活用できるでしょう。今回は、それらの概要と使い方のポイントを解説します。

(文：平沢栄司)

### ビートエディタには発音タイミングを整えるクオンタイズ機能を搭載

ビートエディタは ABILITY に内蔵されている波形編集の1つです。トラック上でエディットしたい波形を選択してビートエディタを開くと(画面1)、音の立ち上がりを検出して「アタックライン」が挿入され、音符やリズムに合わせて自動的に波形がスライスされます。そして、アタックラインをドラッグして波形をストレッチしたり、スライスされた波形をドラッグ&ドロップして入れ換えることで、フレーズやリズム・パターンを簡単に変更することができます。

新しくなったビートエディタには、アタックラインを用いたエディット機能として「クオンタイズ」が追加されました。これまでアタックラインを手動で前後に移動することで個別に発音タイミングの調整が可能でしたが、クオンタイズを利用すればアタックラインが最寄りのグリッド線に自動的に引き寄せられるため、レコーディングした生演奏にも MIDI の打ち込みのように一括でタイミングの修正が可能となります(画面2)。

その際、修正する割合(強さ)を設定すれば、ジャストのタイミングにカッチリと揃えるだけでなく、値を小さくすることで矯正する力が弱まり、演奏の自然なニュアンスを残したままリズムを引き締めることができます。タイミングの調整には、アタックライン

のドラッグと同様にタイムストレッチによってスライスごとに波形を伸縮させる方法に加えて、波形はそのままに無音の挿入や重なる部分を削除しながら位置を調整する方法も用意。前者は発音タイミングが移動しても、その前後に隙間が空いたり重なることがないため、リード・ギターやボーカルなどの連続したフレーズを演奏するトラックに有効です。一方、後者は波形はそのままにタイミングだけが補正されるので、リズムを刻むバックギタやドラムのパターンなどの歯切れ良く演奏するトラックに適しています。

なお、クオンタイズは選択している波形全体に有効なので、最初は弱めの設定から試してみましょう。また、一部の区間のヨレが気になる場合は編集メニューの「範囲選択」でそこだけを選択し、強めのクオンタイズを実行すると上手に弾けた他の部分に影響を与えずに済みます。

### ボーカルエディタには揺れや深さを設定可能なビブラート機能を搭載

ボーカルエディタは DAW ソフトの必須機能となったピッチ&タイミング補正を行うためのオーディオ編集画面です。名称は「ボーカル」となっていますが、単音の旋律ならギターなどの楽器のパートでも利用できます。エディットしたい波形を選択して画面を開くと、フレーズのピッチとタイミングを解析し、MIDI の打ち込みのようにオーディオのフレーズがピアノロール上にノートとして表示されます。そして、各ノートを上下にドラッグすればピッチを、その端を左右にドラッグすると発音タイミングや長さを修正することが可能です。また、正しいピッチやタイミングに一括で矯正する機能も用意されています。

新たに追加された「ビブラート」はノート単位でビブラート効果を加えることができる機能です。ストレートに歌った部分に後からビブラートを加えて表情豊かな歌唱にしたり、うまく歌えなかったビブラートをピッチ補正でフラットにした後、ビブラ

ト機能で改めてピッチの揺れを加えるといった使い方が考えられます。

設定したいノートを選び、画面を開いたら、ビブラートをかける範囲と振幅(効果の深さ)&速さをマウスで調整していきます(画面3)。もし、Megpoid やがくっぽいどなどの VOCALOID を触った経験がある人なら、VOCALOID EDITOR のビブラート設定を思い浮かべるとわかりやすいでしょう。なお、速さと揺れについては変化カーブをマウスで描くことで、徐々に速く/遅く、深く/浅くといった動きを作ることができるため、人間が歌った時に近い自然なビブラート効果を再現することが可能です。特に、徐々にビブラート効果を深くしていく設定は効果的です。また、気に入ったビブラート効果が得られたなら、その設定をプリセットとして保存しておくこともできます。他のノートに素早く同じビブラート効果を加えたり、別の曲でも同様のビブラート効果を試すことが可能です。

その他にも、ボーカルエディタには魅力的な機能が用意されています。それが AUTO ハーモナイズ機能です。曲の調やスケール、コード・トラックに設定したコード進行を基に、メロディーに対して任意のインターバルで最大3声分のハーモニーが作成されます。こちらも各声部ごとにオーディオ・トラックに書き出した後、それぞれのビブラートを修正していくことで、一斉に同じように音程が揺れる機械っぽいビブラートを回避でき、自然なハーモニーが得られます。



トラック上の非破壊編集やウェーブエディタを利用した本格的な波形編集、そして、今回紹介したビートエディタやボーカルエディタなど、ABILITY には高度なオーディオ編集機能が用意されています。ボーカルや楽器演奏のトラックを積極的にエディットすれば、ワンランク上の仕上がりが得られるでしょう。



画面1 波形の上で右クリックで開くメニューから、ビートエディタやボーカルエディタを開くことができる。波形を選択した後にツールのボタンで開いても良い



画面2 クオンタイズの画面は右クリックメニューから呼び出す。事前に編集メニューの範囲選択でクオンタイズを実行したい部分を選択しておく



画面3 設定したいノートを選択し、右クリックメニューから「ビブラートの設定」画面を開く。効果の長さはノート後半の66%の区間がデフォルトで設定されている。振幅と速さはマウスで変化カーブを描いて設定する